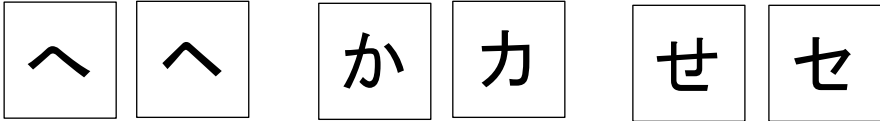


| | |
|--------------------|--|
| 大項目 | 読むこと |
| 小項目 | カタカナの読み |
| タイトル (教材名) | ひらがなとつなげて覚えよう！（文字カード編） |
| 目的 身につけてほしい力 | ・文字カードを使って、カタカナをひらがなと関連づけて覚える。 |
| 教材の概要 |  |
| 材料 作り方 工夫点など | <p>↑ひらがなと形が同じ (他にも「リ」など)</p> <p>↑ひらがなと形が似ている↑ (他にも「ウ」「ヤ」など)</p> |
| 画像 | <p>・上記のような、ひらがな一文字のカード、カタカナ一文字のカードを作成する。</p> <p>・「ひらがなと形が同じ」カタカナ、「ひらがなと形が似ている」カタカナ以外のカタカナ、またひらがなのカードも同様に作成する（50音ずつ）。</p> |
| 教材の使用方法 | <ol style="list-style-type: none"> ① 指導者は、ひらがなのカードを提示し、児童生徒は声に出して読む。 ② 指導者は、ひらがなのカードとカタカナのカードを同時に提示し、児童生徒は声に出して読む。 ③ 指導者は、カタカナのカードのみを提示し、児童生徒は声に出して読む。 ④ 児童生徒は、指導者が提示しているカタカナと同じカタカナを書き、さらに声に出して読む。 |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなの読みが定着しているかの確認をしてから行う。 ・書くことに抵抗感がある児童生徒の場合、④の活動は控えるなどの配慮が考えられる。 ・「ひらがなと形が同じ」カタカナ、「ひらがなと形が似ている」カタカナから学習を始めることで、児童生徒がより達成感を得られるようにする。 ・児童生徒の負担にならないよう、指導者は「今日は○枚のカードを読みます」など、活動のはじめに児童生徒に伝えておく（一度の学習時間に、児童生徒が負担に感じる枚数を行わない）。 ・参考文献「特別支援教育をサポートする読み・書き・計算指導事例集」梅田真理 ナツメ社 2016年 |